

アートが繋ぐ“まちの魅力発見”“まちの愛着の育み” 「MAP-Muroran Art Project」鉄と光の芸術祭2021の開催

ムロランアートプロジェクト
Muroran Art Project

1 はじめに

室蘭市は、1872年の開港以来、港を中心に製鉄・製鋼・造船などの北海道の中心的な工業都市として発展してきましたが、鉄鋼不況による製鉄工場の統廃合や撤退等による人口減少（1969年18.3万人→2022年1月約8万人）、少子高齢化が課題となっています。かつて旧室蘭駅を中心に賑わいを見せた室蘭市蘭西地区商店街も、いつしかシャッター商店街と言われるまでに空き店舗が多くなり、旧室蘭駅周辺の市街地の活性化が急務となっていました。このような状況の中、2021年10月9日～31日の土・日の計8日間「MAP-Muroran Art Project」～鉄と光の芸術祭～を開催しましたので、その内容等についてお伝えします。



活性化が望まれる中央町の商店街（撮影2020年6月）

2 「MAP-Muroran Art Project」とは

主催したのは、「MAP-Muroran Art Project」です。設立は、2020年12月で、メンバーは現在15名。室蘭市民は勿論のこと、美術アーティスト、舞台芸術家など、様々な職種の人たちから構成されており、「室蘭」の魅力を実際の力で再発見し、まちで暮らす人、観光客、アーティスト、企画者など、参加者みんなで「室蘭の新しい文化地図」をつくることを目的としています。

発足は、代表の荒井が2020年9月に、コロナ禍の社会を励まそうと、仲間を集めて室蘭市の大黒島より夜空にレーザー光を投射したことがきっかけで、現在の「MAP-Muroran Art Project」の結成に繋がりました。

3 事業の目的と事業概要

本事業の目的は、MAPの目的と同様、「人口減少化が進み、“シャッター通り商店街”となっている「室

蘭市蘭西地区商店街」において、下記の取組みを行い、継続的な活性化の足掛かりとする」とし、併せて地域に点在し保存活用が急務となっている歴史的建築物をギャラリー化し、その保存促進に努めます。

【事業概要】

- (1) 実施日：令和3年10月9日～31日（土・日の計8日間開催）
- (2) 場所：室蘭市中央町
- (3) 事業概要
 - ① 「歴史的建造物」等を活用したアート展
 - ② アート展の場所や商店名等を記したリーフレットを作成し、訪れる人をまち歩きなどに誘導、街の魅力の再発見に繋げる
 - ③ エリアマネジメント講座を実施し、将来のまちづくりに繋げる
 - ④ 地元関係者で構成する「プラットフォーム的な場」を設け、幅広い意見の収集と協働化を図り、継続したまちづくりに繋げる

4 事業の内容

以下にギャラリーとした歴史的建築物とアート作品の詳細を記載します。

① 旧室蘭駅舎



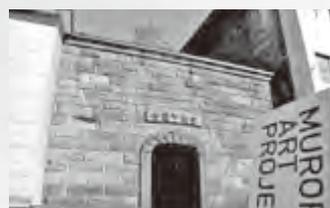
明治45年建造。北海道内の駅舎の中では最も古の木造建築物。建築様式は寄棟造*で、明治の洋風建築の面影を残す屋根や白壁づくりの外観を有しています。

中村 岳 (Nakamura Takeshi)

1966年 室蘭市出身。
作品名「訴求空間」。木造立体作品。赤さびのように塗った木材を即興で組み立てた高さ5mにも及ぶ作品は旧室蘭駅舎にて存在感が際立つ作品でした。



② 千穂萬歳堂



石造り木骨造倉庫（大正14年建造）。旧三ツ輪商会所有。外見は昔の姿を活かしながら、中は1階と2階にアートギャラリー空間を持つ。ギャラリー名は「永遠や繁栄の願い」を意味。

* 寄棟造とは、建築物の屋根形状の一つで、4方向の屋根面を有する屋根。

川上 りえ(Kawakami Rie)

石狩市在住。鉄材を使った彫刻2作品を展示。

「Space adstraction II」は直径2m以上の円形の鉄の彫刻を3つ並べ、表面を地形に見立て歪ませたり溝をつけたりしている。鉄をさびさせることで大地の色を表現した。



室蘭工業大学 山田研究室

山田深教授のもと、院生・学部生15名が設計活動や研究に取り組んでいる。今回はその成果を発表。

展示参加者:浅野樹、山崎巧、猪股航平、川去健翔、柴田佑、国貞佑弥、花岡大樹、三上麗。



③ 旧丸越山口紙店



煉瓦・木骨煉瓦造併用、大正2年10月建設。紙・文具専門卸問屋の店舗兼倉庫。現在は、倉庫として使用されている。建物内には、今も当時の金庫や机、のれんなどが置かれている。

岩崎 麗奈(Iwasaki Rena)

札幌市在住。主に写真による作品制作を行う。

今回の「Black ortrait」はガラスやカモメの表情を切り取ったモノクロ写真28点から構成されている。中には、室蘭市内で撮り下ろした作品もある。



④ 中央町たのしま横丁

現在はコミュニティ広場として使われている同横丁を使ってアートワークショップ等を開催しました。

大黒 淳一(Oguro Junichi)

札幌市在住。商業音楽から立体音響空間設計まで幅広い音楽活動を行っている。

今回は、室蘭市内を歩いて音を録音し、その音をみんなで楽曲にした。



5 事業の結果

事業の結果、効果を把握するために、来場者に対してアンケート調査を行いました。総じて目的とした項目に対して、高い評価を得ることができました。

●「各展示・イベントの感想」：どの展示も満足度が高く、芸術祭の「総合満足度」は約9割が「満足・やや満足」、「また参加したい」と回答しています。

●この芸術祭で起きた行動の変化：「室蘭の新しい魅力を感じることができた」「芸術文化にふれる機会が多くなったと感じた」「室蘭駅周辺に来るきっかけとなった」の3項目は、いずれも80%以上の高い評価を得たことから、当芸術祭の目的は達成できたと判断しています。

●「この芸術祭のついでに室蘭駅周辺で行ったことは何か？」の問いに、一番多かったのが「まち歩き」と答えた人でした。パンフレットでまち歩きを誘導したことも併せて、この催しが実を結んだと考えています。

6 おわりに

今回の第1回「鉄と光の芸術祭」を通じた活動では、総じて室蘭市内でこのようなアート展を行った結果、人がまちに出て、まちの再発見につながったと思っております。また、令和4年度に入って、まちづくりを行いたいというグループが結成されるなど、室蘭市の活性化に向けて、少しずつ前に進んでいるような気がしています。

今後もこの「MAP-Muroran Art Project」の活動を続け、室蘭の芸術文化やまちづくり力の向上に、微力ながら寄与していきたいと考えています。

最後に、活動の実施にあたり地域住民、企画を積極的に受け入れていただいた企業、行政機関の方々に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



Muroran Art Project
<https://m-a-p.jp/>